さくら花 16

笑顔満開さわやか角小

重点 ： 4つのあ
●あいさつ●あんぜん
●あい読書●あとしまつ
＋「何かできらり」
正しいことば

H30年11月29日（木）発行

角館小にN響がやって来た！

11月26日（月）、日本を代表するNHK交響楽団のメンバー5人が来校し、一流の演奏を鑑賞しました。このコンサートは、NHK秋田放送局とNHK交響楽団が主催する「NHKこども音楽クラブ」事業で、クラシック音楽のすばらしさを知ってもらおうと全国の学校を訪問しているものです。秋田県での開催は、3･4年ぶりで、今年度は角館小学校1校だけです。全国でも毎年20校ほどしか開催していない事業だそうです。この度は幸運にも角館小学校に声をかけて下さり実現したものです。

当日は、N響メンバーからトロンボーン奏者池上亘さん、トランペット奏者菊本和昭さん、山本英司さん、テューバ奏者の池田幸広さん、東京フィルのホルン奏者の上間善之さんの金管5人のメンバーが来校し、G.F.ヘンデル:王宮の花火の音楽から「序曲」、C.ドビュッシー:亜麻色の髪の乙女、D.ゼンプ:愛しのトロンボーン、H.カーマイケル:スターダスト、賛美歌:アメイジング･グレイス、P.ネイグル:ジャイヴ･フォー･ファイブの6曲、さらにアンコールでは校歌を含め2曲を演奏して頂きました。プロが奏でる透きとおるようなそれぞれの楽器の音色と、金管楽器が奏でる音の重なりに、目と耳を研ぎ澄ませながら生演奏の世界に存分に浸り、楽しく鑑賞できました。

演奏会の終わりに、児童から「自分も演奏してみたい」「クラシックに興味をもった」などの感想発表がありました。最後に代表の6年生小松美咲さんが、お礼の言葉を添えて花束を贈呈しました。、あっという間の60分のプログラムが終わりました。当日は50人を超える保護者や家族の方々、地域の方々にも鑑賞いただきました。

授業で勝負！（外国語・体育・図工）

11月13日（火）に南教育事務所のI.指導主事をお招きし、外国語活動の校内授業研究会を行いました。

3・4年生では、今年度から新たに年間15時間実施します。5・6年生は、これまでの35時間から50時間実施します。平成32年度には、3・4年生で週1時間（年間35時間）、5・6年生では週2時間（年間70時間）実施されることになっています。小学校中学年では、異文化への興味関心を養い、英語など外国語に興味をもち、簡単な英会話での挨拶などが積極的にできるようにすることを主なねらいとしています。高学年では、さらに外国の生活や習慣、文化などに興味を深め、進んで英語などでコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことを主なねらいとしています。

3年竹組の子供たちは、「アルファベットとなかよし」という学習で、歌やクイズを通してアルファベットの読み方に慣れ親しみ、アルファベットが日常生活の中にたくさん使われていることを楽しみながら学習する時間でした。子供たちは、外国語指導助手（ALT）のE.先生のネイティブの発音を聞きながら、友だちと楽しく学習を進めながらアルファベットを習得していました。

5年竹組では、「What's this?　クイズ大会をしよう」という学習で、英語での挨拶から授業が始まり、担任もほとんど英語で授業を進めていました。自分の好きな物をカードで準備し、英語でヒントを与えながら、好きな物を当てていくゲームを通して「What's this?　It's～.」という表現に慣れ親しんでいきます。子供たちはグループで、一人がクイズを出し、他のメンバーがヒント毎に自分の思った答え（出題者の好きな物）を当ていきます。担任とE.先生がお手本を示しながら楽しくメンバー同士、会話を楽しんでいました。

11月21日（水）には南教育事務所雄勝出張所のM.指導主事、同じく仙北出張所K.指導主事をお招きし、体育と図工の校内授業研究会を行いました。1年梅組では体育の「ボールなげゲーム～なげよう・あてよう・キャッチしよう」の学習でした。体育館いっぱいに響く元気な挨拶から授業が始まり、体育館いっぱいに動きまわるキビキビとした1年生の行動に、参観した他の教諭も1年生の成長に驚いていました。グループ毎に段ボールや台で工夫した的当てゲームを行い、点数を競い合いながら、より強く遠く正確に投げる方法について考え、挑戦し、練習し、投げ方を身に付けていきます。子供たちは寒さに負けず、一生懸命真剣に参加していました。

2年竹組では、交流ホールを使って、図工「切って、ひねって、つなげると　～ちょきちょき　ねじねじ　大変身～」という学習でした。牛乳パックをはさみだけを使って切り開き、つなげて形を作り変えて、思い思いに創造したものを作品として仕上げていく学習です。子供たちは4人程のグループになり、始めは個人個人で思い思いに牛乳パックを様々な形で切り開いて大変身させていきます。やがて、となり同士やグループ内でそれぞれの作品をホッチキスでつなげ、よりダイナミックな作品に仕上げていきます。子供たちは時間も忘れて作品作りに熱中していました。